

夏期講習会の重要性について

長いコロナ禍も早3年目に突入しました。ワクチン接種が日々進んできたせい、それとも慢性化してしまったのか？ は、よくわかりませんがやっと少しずつではありますが、以前の平安が訪れつつあります。そんな中、生徒たちにとっては、大事な夏休みが訪れようとしています。一昨年ほど社会全体で新型コロナに関しては騒がれなくはなりましたが、とにもかくにも、生徒たちにとっては、決して学習をおろそかにするわけにはいかない夏の到来なのです。

光優塾では、昨年の夏期講習会より、夏休みのカリキュラム、教材を全面的にリニューアルし、新たな気持ちで夏期講習会を迎えようとしています。(小学生は一昨年リニューアルしました)

今年度も、福山市の小・中学校は8月を夏休みと予定しています。光優塾では、例年通り7月後半から8月の月末まで夏期講習会を実施します。長期の学習をきちんと行うか、行わないかはその後の受験結果を大きく左右します。何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

日々効率的に授業を行い、宿題をする。確認テストで自分自身の出来、不出来を確認する。当然のことながら、できなかった問題は、追試という形で復習をしていただきます。追試は、子どもたちをいじめるためのものではなく、勉強をしていない生徒に勉強をさせるための1つのアイテムです。当然のことながら、勉強をしているにもかかわらず、追試になることもあります。それはその科目が苦手であ

ったり、よく理解していなかったり、理由は様々でしょう。でも1つだけいえることがあります。確認テストができていない生徒は、その単元において「一定のレベルに達していない」ということです。あたりまえのように、講師は追試を要求します。生徒に一定レベルまで学習し、その内容を習得して欲しいからです。何事においても、1つのことに一生懸命になれない者は、中途半端に終わってしまいます。保護者の中には、「勉強だけがすべてではない。私の子は、好きなことには頑張れる。」という方もいるかもしれない。確かにその考えには一理あります。決して否定するわけではありません。しかし、ここでよく考えてほしいのです。勉強が好きではないが、しなければならない理由があるのです。まず、高校や大学を卒業し社会へ出てみると、「好きではないが、しなければいけないこと」がいかにたくさんあるかわかるはず。子どもの時から、好きなことだけをし、しなければならないが、したくないものから避けて通っていったものが、果たして社会に出て「好きではないが、しなければいけないこと」に一生懸命取り組めるのでしょうか？答えは否です。我慢をしたことのない者に、我慢はできないのです。子どもは、好きなことに走りがちです。そのため、保護者が重要性を説くことが必要となります。

過去、アメリカのカリフォルニア大学で200名の5歳児に「マシュマロテスト」という実験が行われました。実験の内容は、こうです。

5歳児を1人ずつ部屋に入れ、テーブルの上にあるマシュマロを見せました。そして試験官は次のように声をかけ

ました。「この部屋にいてね。その間何をしてもいいから。マシュマロは食べてもいいけど、もし我慢できたらあとでもう1個あげるからね」結果として、マシュマロを食べた子どもと食べなかった子どもは、約半数ずつに分かれました。食べた子どもと食べなかった子どもの違いがどうなるかという追跡調査は、子どもたちが20歳になるまで続けられました。低年齢時における違いはさほど現れませんが、大学入試の時点で大きな差となって現れました。食べなかった子どもの大半が有名大学に合格し、食べた子どもは大学に進学しない子どもの割合が高くなりました。この実験からいえるのは、食べなかった子どもは我慢することができた子どもであったので、「好きではないが、しなければいけない勉強」に取り組めたということです。いい大学に進学したとはいえ、人生に成功したかどうかは追跡がないのでなんともいえませんが、1つの指標を示していると思われま

す。また、現在日本中に数万人いるといわれている「ニート」の大半は親がつくったともいえます。(ここで私が述べるのは、あくまでもその1例であってすべてのニートがこのことが原因であるというものではありません。)

ある保護者がいます。この保護者は、子どもにいつもこう言う「○○ができれば□□をあげるね」子どもは目先の欲しいもののために一生懸命取り組みます。このやり方は、子どもにとって効果てきめんです。しかし、いつもこの手法を使うのは間違いです。それは、子どもの欲しいものはだんだん高価になり、やがて手に入らないものをほしがるようになるからです。子どもは、手に入らないと思うと行

動しなくなってしまう。そして、いきつくところは「何もしたくない」となります。こんな子どもたちが、学校現場では、頑張っても何ももらえないから、先生の言うことを聞かない。何もしない。何もしないと暇だから、近くの子どものちょっかいを出すことになる。クラス崩壊の序章です。ここで食い止めることができないと完全にクラス崩壊を起こしてしまいます。発端は我慢できない子どもから始まるのです。

勉強は大切です。ここに記していない重要性もまだまだたくさんあります。すべてを語りつくすことはできませんが、子どもたちにしっかり勉強をさせたいということなのです。1人でも多くの子どもたちに我慢することを教え、我慢した結果達成できたことを大きな声でほめてあげたいのです。一生懸命取り組んだ先の達成感を味わってもらいたいのです。頑張って、頑張ってきたときの喜びを味わってもらいたい。そのために、私たちは努力をおしませ